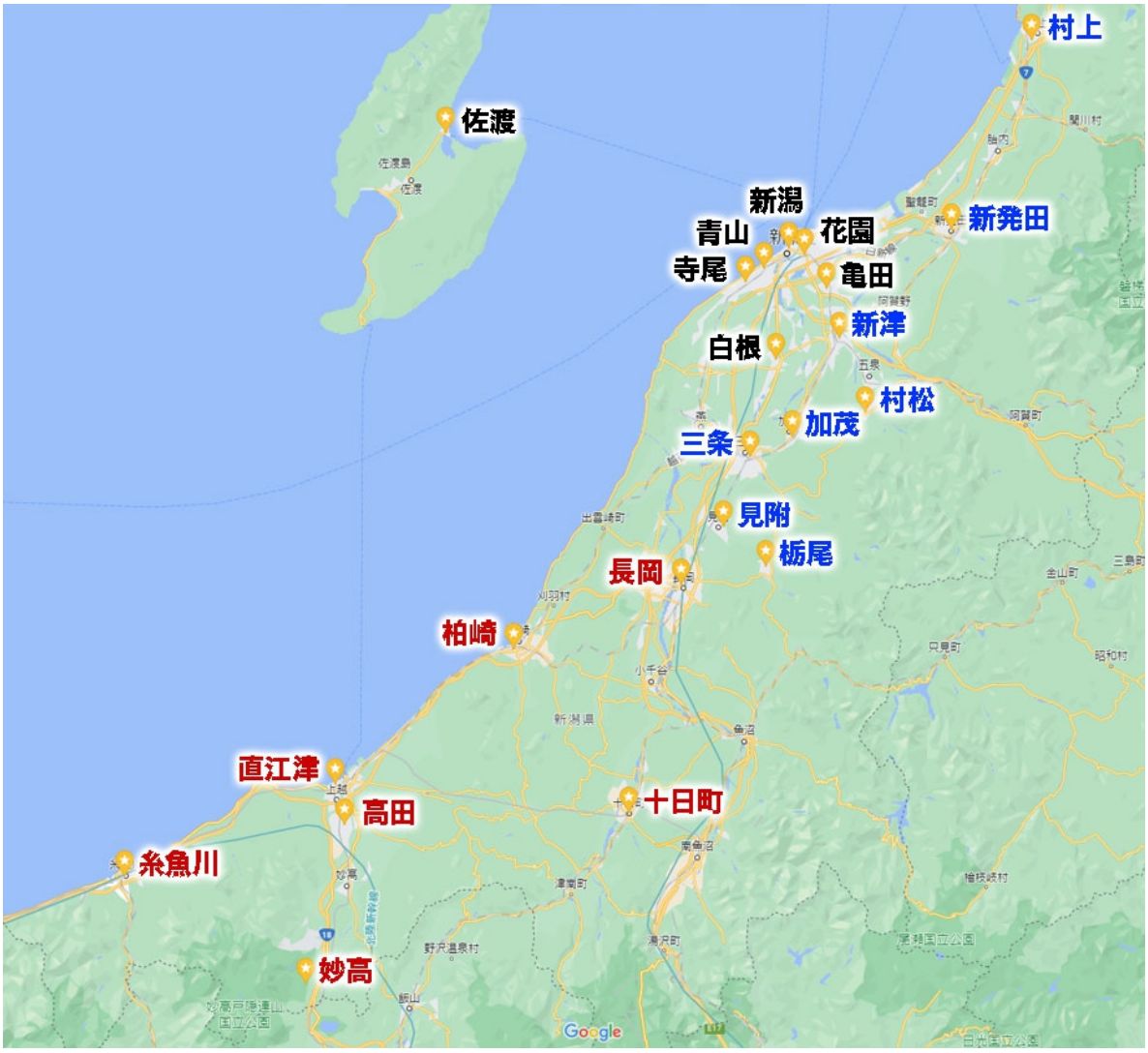
新潟教区現況資料

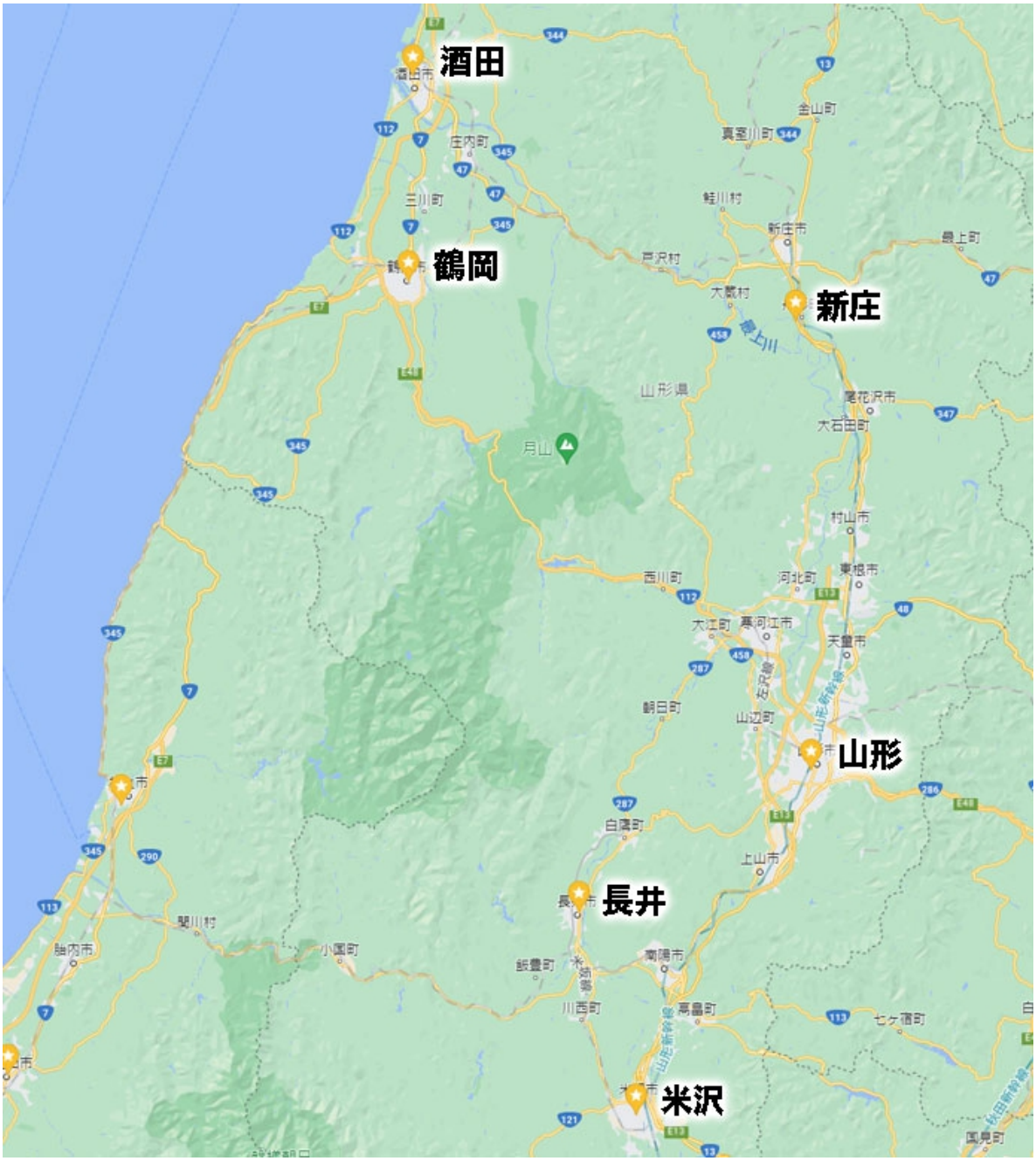
新潟地区、新発田地区、長岡地区



新潟地区		新発田地区		長岡地区	
新潟	ラウール、岡、ロレンゾ	**三条**	石黒	**長岡**	真壁
佐渡	ラウール、岡、ロレンゾ	**加茂**	石黒	**柏崎**	佐藤勤
花園	高橋	**新津**	坂本、アンリ	**十日町**	佐藤勤
－鳥屋野	高橋	**－村松**	坂本、アンリ	**高田**	伊能
青山	坂本、アンリ	**新発田**	佐藤允広	**－妙高**	伊能
寺尾	町田	**－村上**	佐藤允広	**直江津**	伊能
亀田	ラウール、岡、ロレンゾ	**見附**	田中	**糸魚川**	伊藤
白根	ラウール、岡、ロレンゾ	**栃尾**	田中		

新潟から村上まで車で 60 キロ、1 時間。新潟から糸魚川まで車で 175 キロ、2 時間

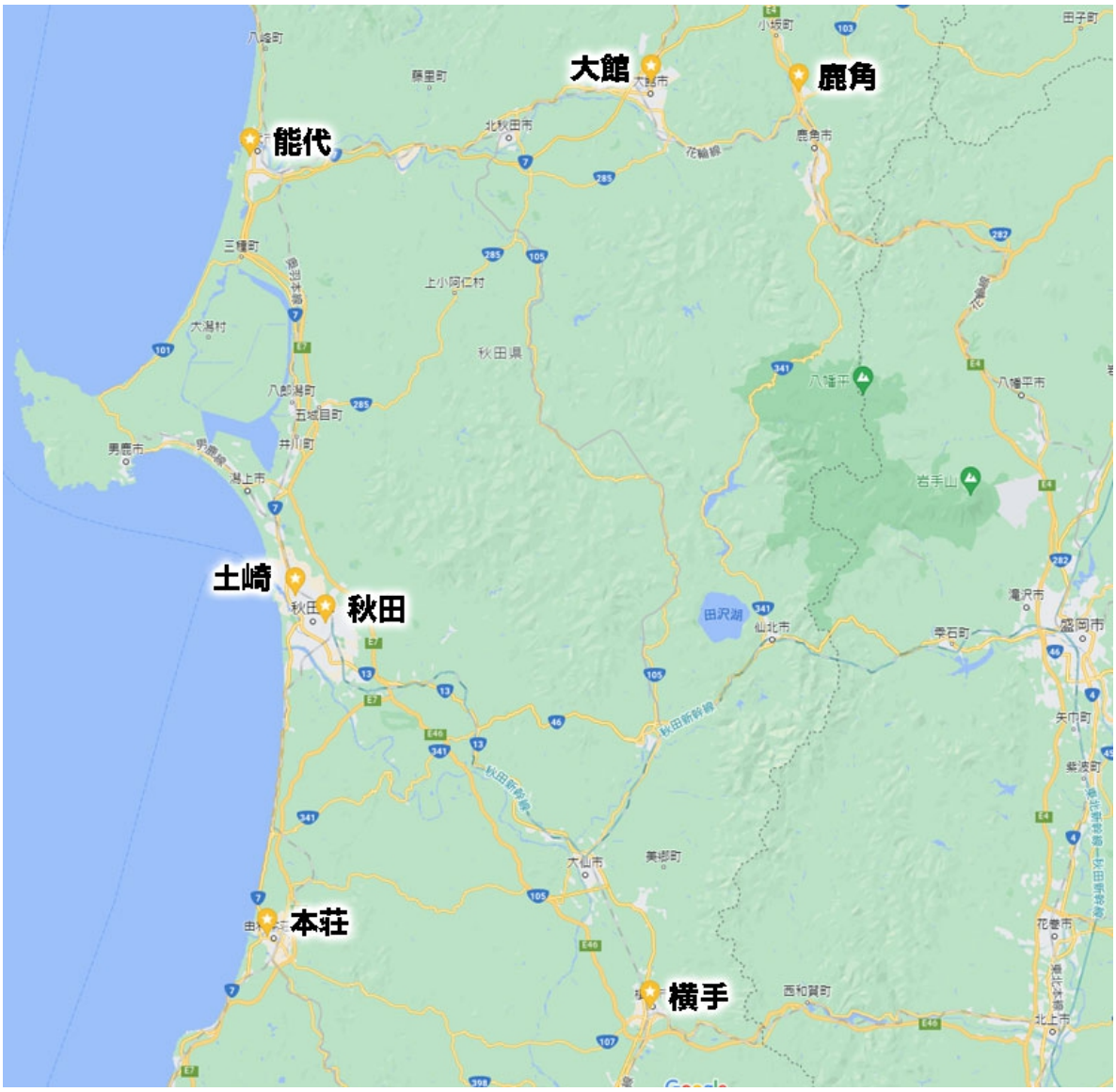
山形地区



山形	ワルヨ	**鶴岡**	楊
－新庄	ワルヨ	**酒田**	楊
米沢	パリヤント		
－長井	パリヤント		

山形から酒田まで車で 120 キロ、1 時間 50 分。山形から米沢まで車で 55 キロ、1 時間。

秋田地区



秋田	飯野、フレデリック、桃田	**横手**	クジュール
土崎	新立	**－上宿**	クジュール
本荘	新立	**大館**	レヴィツキ、グエン
能代	オマン	**鹿角**	レヴィツキ、グエン

秋田から鹿角まで車で 135 キロ、2 時間強。秋田から横手まで車で 70 キロ、1 時間。

信徒の減少と高齢化：

新潟教区における信徒数は、以下のように減少している。この信徒数は名簿上のものなので、実際には転出した方で籍を移していない方が計上されており、また特に海外出身の方が入っていない。一方、高齢信徒の存在とその祈る姿は信仰の模範であり、土台のように共同体を支えている。

受洗者数

年	幼児	成人	洗礼合計	死亡
2016	15	36	51	68
2017	28	50	78	97
2018	22	37	59	77
2019	22	26	48	78
2020	12	31	43	77
2021	16	18	34	74

信者数

年	信徒	司祭・修道者	信者合計
2016	7314	104	7418
2017	7259	105	7364
2018	7164	101	7265
2019	7110	90	7200
2020	6895	85	6980
2021	6818	76	6894

司祭の減少と高齢化：

司祭の減少は神言会を除き、特に修道会で著しい。

年	教区司祭	他教区/修道会司祭	司祭合計
2016	16	21	37
2017	15	23	38
2018	16	20	36
2019	12	18	30
2020	13	18	31
2021	13	16	29
2022/06	14	14	28

教区司祭＋他教区派遣司祭の年代

年	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代－
2022	5	4	2	2	2
2024	4	4	2	3	2
2026	1	7	2	3	2
2028	0	7	2	3	3
2030	0	7	2	2	4
2032	0	5	4	2	4

※　2022 年 8 月現在、14 名の教区司祭のうち 2 名は引退。2022 年現在の平均年齢は 69.4 歳。

司祭の召命：

過去 30 年間に叙階された教区司祭は 1993 年、1995 年、2005 年、2009 年、2022 年の 5 名で、亡くなられた教区司祭は 11 名。現在、東京カトリック神学院では司祭養成に 8 年かかる。なお、過去 5 年間で、秋田教会からひとり神言会に修道士コースで入会、新発田教会からフランシスコ会に入会。なお、新潟教区は高松教区より一人司祭を派遣していただいている。また、東京教区からも長い間司祭を派遣していただいていた。

奉献生活者の会：

特に新潟県における女子修道会、在俗会での会員の減少が著しい。

新潟県では観想修道会の聖クララ会が上越市に、聖マリア在俗会会員が長岡市などに、

山形県ではオタワ愛徳修道女会が山形市に、

秋田県では聖心の布教姉妹会、聖霊会、そして私的誓願の会の聖体奉仕会が秋田市にある。

男子修道会も会員の減少が続いている。上越市のフランシスコ会は 1 名に、山形県のイエズス・マリアの聖心会は 2 名となった。それに対して、秋田県の神言会は人数が減っていない。また、山形県、新潟県における司牧のために 2 名の神言会会員が派遣されている。

こうした状況に伴い、以前、地区ごとに修道会に委託されていた宣教司牧は、秋田を除き教区と修道会が共に取り組む形に変化してきた。

子どもと青少年の減少：

コロナ禍が始まる前から、教会学校がすでに行われなくなっていた小教区が多くある。30 の小教区の中で、教会学校を実施していた教会は 5 以下ではないかと思われる。子どもにとって、同世代の友達がいることは重要なため、近隣の教会が合同で行事を行うなどの工夫が行われている。

青年の人数は減少傾向にあるものの、教区内外をつなぐネットワークがあり、コロナ禍にあっても工夫して活動が続けられている。海外出身、特にベトナム出身の青年が多く、日本人の青年とのつながる機会が少しずつ増えてきている。

海外出身の信徒：

定住している方と実習生や学生として来ておられる方とがおり、特にベトナム出身の実習生の方がここ数年で激増している。小教区では典礼や行事などを工夫して一つの共同体を作るための取り組みが進んでいる。新潟教区には神言会のベトナム人司祭が一人いるが、距離的に山形、新潟県での司牧は難しく、東京在住のベトナム人司祭に協力を依頼している。

フィリピン出身の方は、多くの世帯で子どもが独立している。教区としては、フィリピン人司祭ひとりが新潟県と山形県のフィリピン人司牧を担当している。

小教区評議会への参加、典礼奉仕、教会行事や清掃など、共同体活動に参加する場面が増えてきている。

地区の役割と再編成：

2016 年に地区再編成の可能性について菊地司教より問い合わせがあったが、答申が出された後、教区長不在となったため進んでいない。それから 6 年が経ち、上記のような変化に加え、地域社会のさらなる少子高齢化など、地区の状況はさらに変化した。信徒養成は地区の役割の一つである。たとえば、司祭不在の時にみことばの祭儀や病人訪問を信徒が行うための研修が行われているが、地区によっては行われていない。また、地区レベルで小教区評議会の代表者と主任司祭による集いが行われているが、その頻度や内容は地区によって大きく異なる。

小教区運営：

2016 年より小教区評議会規約の整備が行われてきたが、規約の運用が進んでいる教会もあれば、始めたばかりの教会もある。

特に小さな教会においては、信徒数の減少や高齢化に伴い、建物の維持が難しくなってきて

いる。2021 年度は財政赤字の小教区が 11 あった。

司祭の減少に伴い、複数の司祭が交代で複数の教会のミサを担当する地域が出てきた。現在、新潟教区では、例えば A, B, C, D の比較的近隣にある 4 つの教会があるとすると、以下の三つのパターンで司祭が任命されている。

1. A 教会の主任司祭が B 教会も主任を担当し、C 教会の主任が D 教会も主任を担当するケース（三条、加茂。見附、栃尾）
2. A、B、C 教会の主任と D 教会の主任が、ABCD 教会のミサを交替で担当するケース（高田、直江津、妙高。糸魚川）
3. ABCD 教会の主任が、ABCD 教会の助任と担当するケース（新潟、佐渡、亀田、白根）

上記のように司祭が複数の教会を担当する地域では、教会学校をともに行うなど、信徒間の交流も生まれてきている。

典礼：

小教区によっては、修道者や信徒が集会祭儀の司会者として数名任命されており、司祭がいるいないに関わらず、主日の典礼や信心業を行う成熟した共同体として歩みを続けている。

月に一度外国語で朗読や共同祈願をしたり、特定の機会に海外の文化に基づいた礼拝をしたりと、海外出身の方と共に祈る工夫がされてきている。

宣教と社会の福音化：

現在のところ、組織的な活動としては、教区の様々な地域で主に以下の諸活動がカトリック教会の名の下に行われている。どの現場でも、司祭、修道者、信徒が、教員や職員、法人理事や評議員として求められているが、人が足りない。一方、信徒ではないが長く働いている方の教会活動への理解と貢献は素晴らしいものがある。

- 教育活動：幼稚園、中高、短大
- 社会福祉など：保育園、高齢者施設、児童養護施設、母子生活支援施設、依存症当事者支援、船員司牧、教誨師など

これ以外に、小教区でバザーや施設訪問、ボランティア活動、募金や物品の寄付、コンサートなどの活動が地域のために行われている。

新潟、新発田、長岡地区においては、以前は幼稚園の園長は小教区の司祭が務めていたが、現在はほとんどの園長は信徒、または一般の方が務めている（山形、秋田地区は現在も司祭が園長の園がほとんど）。現在、司祭はチャプレンとして園児や教職員にキリスト教的な価値観に基づいた教育のサポートをしている。以前、司祭が園長であったときは、司祭が幼稚園における福音宣教を担当していたが、これからは小教区の共同体として関わる必要がある。